

KITANO きたの広報



総合力で向き合うプロフェッショナル

TOPICS

腎臓病について考えてみませんか？

毎年3月の第2木曜日は世界腎臓デー（World Kidney Day）です。国際腎臓学会と腎臓財団国際協会が、腎臓病の早期発見と予防、腎臓病による負担の軽減を目的に2006年に提案し、現在では世界中で啓蒙活動が行われる日となっています。

北野病院でも「きたのキドニーデー」として毎年さまざまなイベントを開催してまいりましたが、コロナ禍による中断を挟んで2022年はオンラインで開催させていただくこととなりました。

これを機会に、ぜひ皆さんに腎臓病について考えていただけると幸いです。

日 時	2022年3月8日（火）14:30～15:20
開催形式	オンライン配信（YouTube Live） ※上記日時以外ではご視聴できません。
視聴方法	無料で申込みなしでご視聴いただけます。 視聴ページは準備が整い次第、ホームページで公開します。
プログラム	・「尿を作るだけじゃない!! 腎臓が大事な理由」 【講師】北野病院 腎臓内科 主任部長 塚本達雄 医師 ・「腎臓にやさしい食事」 【講師】北野病院 栄養部 管理栄養士 ・「安全に手軽！ 腎臓を守るための運動療法」 【講師】北野病院 リハビリテーション科 理学療法士

お問い合わせ ホームページをご確認ください。



寄附者一覧（2021年9月～11月）

〔法人〕株式会社ニシキ電工 代表取締役 猜山 充 様 匿名：10社様

〔個人〕柴田 岳 様 今村 守 様 青木 矩彦 様 久保 恒彦 様 熊田 俊明 様 村上 和正 様 中筋 吉孝 様

中嶋 允 様 小西 貴美恵 様 発 剛士 様 匿名：12名様

QUESTIONNAIRE

読者アンケート募集！

「きたの広報」では、読者の方からのご意見・ご感想を募集しています。

ご意見・ご感想は、QRコード*を読み取りいただき、アンケートフォームより送信してください。皆さまの“知りたい！”にお応えできるよう精進いたします。

※QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

ご意見・ご感想を
お待ちしております



公式Twitterを
ご覧ください



お気軽にフォロー
してください。



https://twitter.com/kitano_koho

公式Facebookを
ご覧ください



スマートフォンから
カンタンにアクセス
いただけます。



LINE友達のご登録を
お願いします



北野病院からの
お知らせなどを配信
させていただきます。



今年もすべての患者さんに
最良、最高の治療を提供し続けます。



本館の改修工事が次々と完成します。 新しい北野病院の幕開けに 引き続きどうぞご期待ください。

新年明けましておめでとうございます。

昨年も令和2年と同じく、コロナ禍に世界中が振り回された一年でした。令和4年こそは、平穏で良い一年を過ごせることを切望しています。

人類は、過去に何度も大きな感染症に襲われ、それに打ち勝った歴史を持っています。そして、ひとつの感染症を克服するのに10年20年（場合によっては何世紀も）と長い時間を必要としてきたのが、これまでの歴史です。これに対し、新型コロナウイルス感染症では、ワクチン接種が速やかに行われましたので、過去に経験した感染症ほど長い時間をかけることなく克服できるかもしれません。このようになることを祈っています。

ところで、昨年は北野病院にとって記念すべき年でした。3月に新館の運用を開始し、新しく導入した「がん」と「ふるえ」に対する最新の医療機器で診療を始めました。そして、本館の改修工事も始まりました。この改修工事は2023年秋までの長丁場になりますが、全体が同時に完成するのではなく部署ごとに完成していきます。令和3年には歯科口腔外科外来が新しくなりました。令和4年中には小児科の新生児集中治療部、血液浄化センター、第3CT室、低侵襲センター、外来化学療法部、眼科外来、リハビリセンター、集中治療部と続々と改修が終了する予定になっています。

北野病院は今年も地域の患者さんに最良、最高の治療を提供し続けていきます。

何卒、ご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

病院長 吉村 長久

総合力で 向き合う心臓センター

北野病院では、循環器内科、不整脈科、心臓血管外科が心臓センターというひとつのチームを組んで24時間体制であらゆる循環器疾患に対応しています。さらに、多くの診療科がそろった総合病院の強みを活かし、術前術後とも盤石な治療体制を敷いています。そんな心臓センターの横顔をご紹介します。



心臓センターでは、循環器内科、不整脈科、心臓血管外科の医師が毎朝カンファレンスをして、一人ひとりの患者さんについて議論をし、最良の治療を提供しています。その上で、医師だけでなく看護師、臨床工学技士、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、診療放射線技師など多職種が

力を合わせてハートチームを形成。それぞれがプロフェッショナルとしての専門知識と技術を発揮して患者さんを多面的に支援することで、安心して手術や治療を受けていただける環境を整えています。さらに、総合病院としてのメリットを活かして呼吸器内科・外科、

糖尿病内分泌内科、腎臓内科（透析）、消化器内科・外科をはじめとする院内の他の診療科とも連携し、総合力で患者さんをサポートします。伝統的に心臓リハビリにも力をいれており、早期回復のお手伝いにも積極的に取り組んでいます。治療後は基本的にはかかりつけ医の

先生に診ていただくため、地域の先生方とのコミュニケーションも密接にし、患者さんが安心して暮らすことのできる地域づくりに貢献していきます。



心臓血管外科 主任部長
兼 心臓センター長 兼 臨床工学部部長

羽生 道弥

患者さんの負担の少ない
安全な低侵襲治療を提供します

プロフェッショナルな技術で安全安心の治療を

心臓血管外科では、冠動脈疾患、弁膜症、大動脈疾患、末梢動脈疾患のすべてに対応しています。狭心症・心筋梗塞に対する単独冠動脈バイパス術では、心臓を止めずに行う心拍動下冠動脈バイパス術(OPCAB)を標準術式とするなど、患者さんの負担の少ない低侵襲治療を採用しています。僧帽弁閉鎖不全症に対しては、人工弁ではなく自らの弁を修復する僧帽弁形成術を行い、血液をサラサラにする薬を飲まなくて済むようにするなど、患者さんの生活の質を向上するようにも努めています。

私自身、前任地では数多くの心臓・大血管の手術を執刀してきましたが、他の2名の医師もハイボリュームセンターと呼ばれる手術数の多い病院から赴任してきた実績ある専門医です。豊富な経験を活かした安全で安心な手術を患者さんに提供しています。



心臓血管外科

循環器内科から不整脈専門診療に特化

昨今、増加している心房細動などの頻脈性不整脈に対しては、薬物治療に加えて、「カテーテルアブレーション」を行っております。また、徐脈性不整脈へのペースメーカー、致死的心室性不整脈に対する植込み型除細動器、難治性心不全に対する心臓再同期療法などの「心臓デバイス」の



手術と管理を担当しています。必要に応じて不整脈の「遺伝子診断」等も活用して、先進的医療を提供しています。

一方で、心臓は、単に脈を打ち続ける機械ではなく、自律神経等で複雑に制御されている臓器です。加えて、軽微な不整脈が出現することも稀ではないため、過剰に不安をおおったり、不適切な判断や不要な治療がなされているケースもあります。当科では、そのような事を避けるために、患者さんとよく話し合い、平易な言葉を使い、病状や治療法を説明し、対応することをモットーとしております。その上で、患者さんごとのテーラーメイドな診療を行い、患者さんのQOL改善を心がけるよう診療に当たっております。



患者さんに寄り添う
テーラーメイドな治療を実施

不整脈科

不整脈科 主任部長

春名 徹也



正確に見極め、本当に必要なカテーテル治療を実践

狭心症や心筋梗塞といった心臓の病気から、高血圧やコレステロール値が高いといった生活習慣病、糖尿病、血管の病気などすべての循環器疾患を内科的視点で全人的に治療するのが循環器内科です。薬物療法からカテーテルを使った高度な治療までを幅広く行っています。

当院では、2020年3月に第2心臓カテーテル検査室が稼働し、これまで以上に安全で精緻な血管内治療、迅速な救急治療が可能になり



カテーテル治療担当 副部長 山地 雄平

ました。多くの病院でカテーテル治療は実践されていますが、当院は「患者さんに本当に必要な治療を行う」ことを大切にしています。正しい評価を下すために狭い部分の血圧を測定し、狭窄がどの程度問題を起こしているのか血管の血流障害の程度を見極めます。また、血管内を詳細に映し出すカテーテルによって病変を正確に把握し、最良の治療に導きます。

カテーテル治療には多様なものがありますが、例えばステント治療は現在は再発を招く懸念も指摘されているため薬剤を塗ったバルーンを用いる方法に変えるなど、治療法も常にアップデートしています。今後は、重症の大動脈弁狭窄症をカテーテルで治すTAVIという技術を導入予定です。これが可能になれば、開胸手術ができない高齢者の方の弁も治せて入院期間も劇的に短縮できるなど、患者さんの心身の負担は大きく軽減されます。

循環器内科

循環器内科 主任部長
兼 心臓センター副センター長

猪子 森明

長期的視点に立って「心臓を守る」サポートをチームで支援

心不全は、心臓が悪くなって起きる症状の総称です。送り出される血液が不足するため、動悸や息切れ、呼吸困難、むくみなど全身に症状が起こります。原因は個別にありますので、それぞれに適応した治療が必要です。当院では、心臓血管外科、不整脈科、循環器内科で話し合い、患者さんの状況を多角的に診て治療方針を立て、最良の治療につないでいます。

ただ、心不全の状態になると弱った心臓は弱った状態が負担となってどんどん悪化していく場合が多いため、治療すれば終了とは、なかなかありません。一度傷んでしまった心臓をどうイキイキと維持させて、元気な寿命につないでいくか、総合的な治療方針が肝要になります。そのためには治療後のお薬や生活習慣がとても重要で、そうした取り組みも積極的に行っています。

最近、高齢の心不全患者さんが増えています。高齢の場合、入院・治療して心臓は回復に向かっても、その他の身体機能が弱ってしまって入院が長期化する、あるいは予後やQOLに悪影響を及ぼす課題がありました。それを防止するため、当院では離床のためのリハビリを早い段階から行って効果を上げています。

さらに、再入院をしなくて済む対策にも取り組んで



います。心不全再入院の46%は自己管理不足というデータがあります(※1)。退院したら治ったと思い、自己判断で外来受診や服薬を止めてしまう人が多かったのですが、入院中から「心不全教室」を開催し、啓発に努めています。また、在宅での自己管理ツールを作成し、点数評価することで早期受診につながるシステムを構築して有効に機能しています。今では近畿一円に広がる活動となり、全国的にも注目を集めています。医師だけでなく、看護師や管理栄養士、理学療法士など、みんなでハートチームを組んで、長期的な視点で患者さんの健康寿命を支えるのが当科の大きな特色です。

※1 Tsuchihashi M. et al: Jpn Circ J.2000;64(12):953-959

「真摯に考える」をモットーに 患者さんにとって最善の治療をめざします

北野病院から発足した「大阪心不全地域医療連携の会」

体調を毎日記録することで、自己管理と早期受診につながる「心不全ポイント自己管理用紙」と地域の先生方と診療情報を共有するための「心不全地域連携クリニカルパス」、教育教材である「ハートノート」を作製。参加施設は大阪府内で38病院に上り、「ハートノート」を運用する病院は大阪府外にも広がっています。こうした活動を通じて、心不全患者さんの元気な寿命を守るお手伝いをしています。



かんごホットToday

看護部の目線でホットな
医療情報をお届けするコーナーです



言葉で表現するなら全員野球

特に！活気あるチーム医療が必要な心臓外科手術。
今回はその特徴をご説明します。

特徴1 担当するスタッフが多い

心臓手術のチームは、執刀医3名、看護師2〜3名、
麻酔科医師1名、臨床工学技士2〜3名が担当します。

臨床工学技士は、心臓の手術中に、体へ送る血液を
「人工心肺装置」を介して片時も離れず管理して
います。



特徴2 音も大切な手術材料

患者さんの心臓の鼓動が、モニターを経由し手術室
内に鳴り響いています。不整脈が手術の進行を左右
するため、目と手は手術に集中し耳を澄ませて、チーム
で声を掛け合って手術を行います。



特徴3 とにかく器械が多い

心臓を止めて行う手術も多く、1分1秒のスピードが
大切です。すぐに対応できるよう手術室内には器械
が多くあります。

これらの環境の中でチーム力が問われるのが、心臓
外科手術です。2023年には、ハイブリッド手術室(心・
血管X線撮影装置)の増設が計画され、TAVI(径カ
テーテル大動脈弁留置術)など最新の手術が予定され
ています。この先、循環器内科医師も含め、より一層全
員野球で手術提供をいたします。



健康のヒント

あれこれ

あれこれ紹介します。
管理栄養士だから知っている!!
管理栄養士からアドバイス!



管理栄養士ならではの
健康情報や豆知識、
食べ方のワンポイントなど、

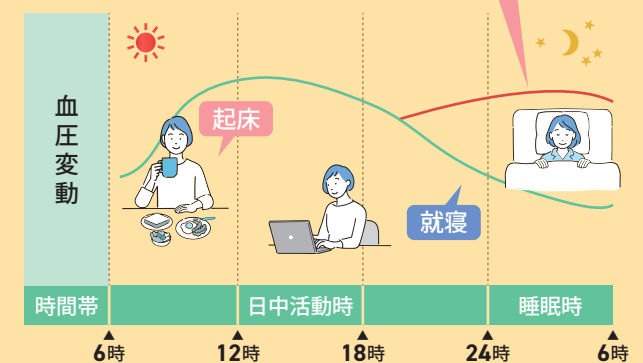
今こそ減塩 血圧変動と食塩の関係

正常な血圧は早朝にかけて上がりはじめ、夕方から
夜間にかけて下がり、睡眠中に最も下がるといった
変動を繰り返しています。

ところが、睡眠不足、気候変化、食塩の過剰摂取と
いった身体的ストレスを受けると「夜間に下がるはず
の血圧が下がらない」「早朝の血圧が異常に高くなる」
など高血圧の状態が続き血管の老化を早めます。

食塩の過剰摂取は、むくみの原因となり特に夜間の
血圧を下げにくくするため、減塩をして血圧コント
ロールすることをおすすめします。

食塩の過剰摂取があると夜間に血圧が下がらない



減塩はわかっているけど難しい

難しく考えず、まずは簡単にできることから始めてみませんか



おうち時間が増えた今だからこそ、おうちご飯で減塩をし、正常な血圧変動を維持して
血管の若さを保ちましょう。

栄養部 管理栄養士 石田 梨奈